

# グローバル通信

## Ryukoku University

### GLOCAL TSUSHIN

#### 2023.12vol.63

若々しい活力あるまちづくりをともに!	1
無くてはならない龍谷大学の理念と枚方信用金庫の理念	1
修士論文中間報告会の感想	2
国内・海外フィールド調査報告	3
第1・2回先進的地域政策研究講演会感想	4
協定先懇談会報告	4
事務局インフォメーション	4

秋が駆け足で通り過ぎ、日増しに寒く冷たい時期となってまいりました。今年も残りわずかとなりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、今回のグローバル通信63号では、夏に開かれた修士論文中間報告会の様子をはじめ、国内・海外フィールド調査の報告、第1・2回先進的地域政策研究の講演会の様子などを掲載しています。

修士論文を提出を間近に控え、何かと慌ただしい時期になりました。くれぐれもお体にご留意のうえ、よい年をお迎えください。



若々しい活力あるまちづくりを  
ともに!

中山 泰

(京丹後市長)

京丹後市は、日本海に面する人口約5万人のまちです。ユネスコ世界ジオパーク・山陰海岸ジオパークに象徴される自然豊かな「海の京都」と呼ばれるまちで、日本の稲作発祥に所縁をもつ神話、古代の絹や日本最古級のガラス細工・製鉄の文化、丹後王国など、古代の歴史ロマンあふれる、なつかしい日本のふるさとです。また、百歳以上の住民の割合が全国平均の3倍以上にもなる百歳長寿のまちです。さらに、生産量日本一の絹織物や、各分野の精密機械・鍛造など高品質な機械金属業なども大切なまちの魅力です。

ところで、本市には大学・専門学校(以下「大学等」)がないことなどから、高校卒業後の若い世代の人口流出が大きな課題です。これをくい止めたい。大学等がないなら創ればいい、大学等の機能呼び込めないか、という着想で「京丹後市夢まち創り大学(通称;夢大)」が平成27年度に創設されました。

これは、市域全体をキャンパスに見立てて、全国の大学の有志の学生・先生・ゼミ等の皆さんが、大学の垣根を越えて、本市をフィールドに様々な学びや活動を展開いただく、というものです。それを地域で括ってネットワーク化・組織化をすれば、多彩な大学・学部から構成される一つのヴァーチャル「大学」が京丹後に発足する形となります。学生の皆さんの夢、地域と住民の皆さんの夢、夢と夢をかけ合わせて笑顔とワクワク感あふれるまちづくりを進めていく、という願いが込められています。

これまでの参加大学等は、貴学をはじめ全国から20大学近く、延べ8千人を超える学生の皆さんが参加いただいています。地域にとって若々しい活力はもとより、学生の皆さんにとっても、課題発見、現場発の実践応用力を培う学びの場に、また、他大学の皆さんとの異学連携が可能な場として、意義深いものと推察します。

貴学の皆様には、これまで夢大の活動を先導してリードいただき、心強いかぎりです。引き続き積極的かつ多彩にご参画いただき、地域や他大学の皆さんとのコラボで、創造的な学びと活力づくりをけん引していただきたいと願っております。

いつもありがとうございます。

無くてはならない龍谷大学の  
理念と枚方信用金庫の理念

吉野 敬昌

(枚方信用金庫理事長)



枚方信用金庫は、1950年(昭和25年)に創立され、今年創立73周年を迎えました。これもひとえに地域にお住まいの方々、地域の事業者の方々、事業所で働く方々に支えていただいたおかげです。

2013年に理事長に就任した私は、信用金庫を含む地域金融機関の経営悪化の主因は急速に進む少子高齢化・人口減少だと考え、地域創生への取組みが最重要課題であり、最優先だとすぐに実行に移しました。

経済施策・経営戦略は、時代の潮流の変化によって様変わりするため、数ヶ月前の取組みがすぐに古いもの(施策・戦略)になり、せっかく立案しても意味を持たないことが往々にしてあります。

突然ですがクイズです!時代の潮流がどのように変化しても同じ課題は何だと思われませんか?答えは『空き家』への対応です。ただ、空き家になってから取組むものではなく、空き家になる前に対策を取る当金庫独自の施策である「巡リズム®」が肝心になります。

「巡リズム®」は地方創生に資する金融機関等の“特徴的な取組事例”に平成28年、平成30年に選定されて、このビジネスモデルは自治体や業界からも注目されています。

本通信で全てを伝えることができないことはとても残念ですが、枚方信用金庫とともに歩んできた私自身がブレなかったこと、構想をすぐ行動に移し、行政機関や鉄道会社とも連携契約を結び、そこに役職員がついてきてくれ、役職員に「枚方市を元気にしよう!」「北河内を豊かにしよう!」という信念が伝わったと、感謝とともに思っています。

今は、空き家対策に止まらず、待機児童の解消のため当金庫の建物を保育園として無償提供し、また今年10月2日には、旧本店営業部(枚方市岡東町)で、“健康ステーション”をオープンして地域の方々の健康寿命の延伸を支える活動を本格的に進めています。

貴学(部)の理念は、広い教養と専門的な知識を身につけ、社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる公共性を深く理解し、高い市民性を持つ自立的な人材を育成することを目標とするとありますが、当金庫も地域の持続可能な発展のために主体的に動ける職員が多くなります。私自身、これからもリーダーとして自立的な人材を育成し、主体的に動ける人材をさらに引っ張っていきます。

一緒に地域創生に取り組みましょう。

## 修士論文中間報告会の感想

龍谷大学政策学研究科では毎年7月に修士論文の途中経過を報告する「修士論文中間報告会」を行います。政策学研究科から2名の方に修士論文報告会の感想を頂きました。

### 堀 泰明（政策学研究科修士課程1年）

政策学研究科修士1年の堀です。私は、増加傾向にあるフリーランスの現状の分析と、フリーランスの保護についての研究を行っています。今年4月の入学から進めてきた研究ですが、中間報告会までの3ヶ月、フリーランスの置かれている現状について、先行研究や、政府の取り組みなどを中心にまとめ、発表を行いました。

研究内容の進捗発表は、中間報告会までの間にも、特別演習などの授業内で発表する機会が何度かありました。授業では、テーマを議論の中心において、他の受講生や先生方の意見をいただき、その度に、研究の方向性や、着地点を見直すことができましたと感じています。

中間報告会においても同様に、最終発表さながらの環境で研究発表を行い、授業のメンバーとは違った、多くの方々の意見や、ご指摘をいただくことができました。また、フリーランスの保護というテーマにおいても、多くの方が関心を寄せてくださり、「引き続き頑張ってください。」という暖かい言葉もいただくことができました。この研究を進めていく上での自信に繋がり、また、研究は、自分の為だけではなく、多くの方に影響を与えるものだと改めて認識することができました。

### 岡田 大斉（政策学研究科修士課程1年）

「急がないとヤバイ！」4月の入学から7月の中間報告会まで、四六時中私は何かに追われていました。それが何なのか、その頃は「漠然とした不安」としか認識できませんでした。

私は、応急危険度判定と住家の被害認定という2つの震災時の制度について研究しています。この研究は入学の志望動機であり、当初から研究を進めたいという思いはあったのですが、気持ちだけが空回る状態でした。そんな私にとって中間報告会は、自分の研究の現在位置、これから進む方向の見つけ方、歩みの進め方など、その根幹部分をととも効果的に学ぶ場であったと感じています。事前準備、質疑応答や率直な指摘をもらうことといった経験により、たくさんの気づきや知識を得ることができました。加えて「漠然とした不安」という怪物の正体は、「何がわからないかがわからないこと」であるとの理解に至っています。怪物は今もちょくちょく姿を見せますが、逃げたり闘ったりできるようになりました。

熱心にご指導いただく先生方、年齢に関係なく切磋琢磨する仲間の皆さん、効果的な学習システムに囲まれ、恵まれた環境に居ることを実感しています。修了が叶うよう怪物と付き合っていきたいと思います。



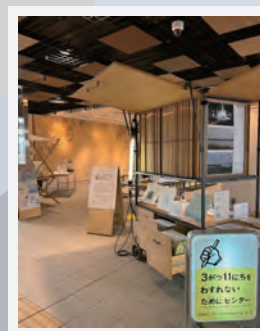
修士論文中間報告会の様子

## 国内 フィールド 調査報告

### 谷澤莉音（政策学研究科修士課程1年）

2023年9月に、仙台市を訪問しました。今回の調査では、東日本大震災時の被災状況を詳しく知るために、震災遺構仙台市立荒浜小学校、せんだい3.11メモリアル交流館、NHK仙台放送局を訪れました。震災遺構仙台市立荒浜小学校では、校舎の1、2階では、津波によって流されてきたがれきの跡や、校舎ベランダでは津波の勢いによって、折れ曲がった柵がそのまま残されていました。教室のあちこちで、津波によって曲がったロッカーや黒板が残されており、津波の脅威を強く実感しました。校舎の4階では、当時の校長、教頭、町内会長へのインタビューをまとめた映像が上映されていました。荒浜小学校では、東日本大震災による津波の脅威や当時のインタビュー映像から、津波が発生した際取るべき行動などの教訓を学びました。せんだい3.11メモリアル交流館では、震災被害の復旧・復興の状況を時系列に詳しく展示していました。ライフラインやインフラの復旧だけでなく、暮らしの状況など、様々な視点から東日本大震災の当時の様子から復旧・復興までの取り組みや暮らしについて学びました。また、荒浜地区の歴史や住民の方々のメッセージや写真を通じて、震災以前の地域を知ることができました。NHK仙台放送局では、当時現場に居た記者の目線から感じた、被害状況や住民への接し方などに関する資料が展示されており、第三者が被災地に向き合うときの困難や必要性を学びました。

今回の国内フィールド調査を経て、自分にできることは何かを今一度考え、研究に取り組んでいきたいと思えます。



## 海外 フィールド 調査報告

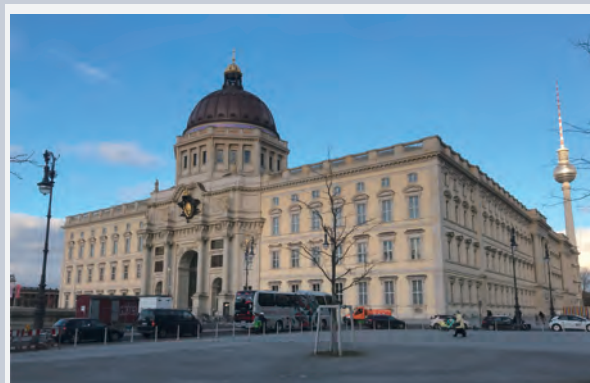
### 吉田瑞希（政策学研究科修士課程1年）

今年度は3名が受講した海外フィールド研究ですが、私はドイツのベルリンを中心に調査をさせていただきました。調査を行ったのは11月の後半で、現地は既に冬でした。曇りや雨ばかりで寒かったです。また本筋とは関係が無いのですが、授業などで学んできたヨーロッパの都市を実際に歩いて体感できたのは非常に得がたい経験であったと思えます。

私は修士論文のテーマとして、現代において日本の城がどのような価値を持っているのか、現代の政策の中で扱われる上でどのような価値を背景としてそれが維持あるいは活用されるのかについて調べています。日本の城として現在イメージされるものは、そのほとんどが近世城郭であり、ほとんどが同じような条件を基に成立したものです。今回の調査では、そうした城を、ドイツの城との比較によって相対化して把握することを目的としました。

城の機能として、政庁、居住、軍事が主なものとして挙げられますが、日本の近世城郭においてはそれらが一体となっている場合が多くなっています。一方で、ドイツにおいては政庁、居住、軍事が日本の近世城郭と比較して分離したものとなっており、そうした点で、日本の城を理解する補助線として非常に勉強になりました。またその上で、それぞれに分離した状態で、現代においてどのような活用がなされているかも見る事が出来ました。

このような比較を踏まえて、今後の研究を進める上で日本の城の成立過程についても知識を得ながら進めていく必要があるように思いました。来年の今頃にはしっかりと研究成果が出せるよう、引き続き頑張りたいと思えます。



## 第1回先進的地域政策研究講演会 感想

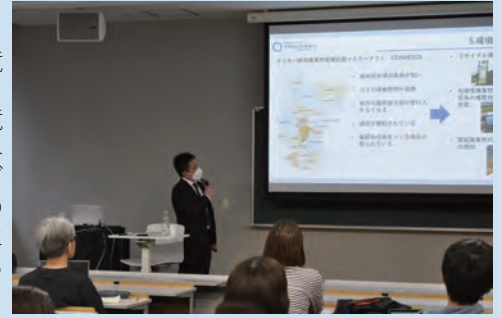
講師：共和化工株式会社 中村 規代典 氏

テーマ：世界のリサイクル先進都市（クリチバを中心に）

石黒 壮真 （政策学研究科修士課程1年）

中村規代典さんの講演では、ブラジルの環境都市として知られているクリチバの環境政策と日本で行われている生ゴミのたい肥化の事例をご紹介いただきました。

その中でも興味深かったのが、クリチバの「ごみではないごみ」プログラムという環境に対する意識啓発活動でした。特に小学校を中心に教育時間外にガーデニングやごみ分別といった実践的な環境教育を実践したことで、家庭の中で大人ではなく子どもがごみ分別の指導を行うようになり、大きな成果となったことが挙げられていました。ごみの分別やリサイクルには地域住民の協力が必要不可欠で、特に次世代を担う子どもたちに対する環境教育は、循環型社会を実現するうえで重要なので、クリチバのように子供たちに対する実践的な環境プログラムを普及させていく必要があると感じました。



## 第2回先進的地域政策研究講演会 感想

講師：株式会社能勢・豊能まちづくり／株式会社E-konzal 代表取締役  
榎原 友樹 氏

テーマ：エネルギーを軸としたまちづくりの挑戦

久保田夏樹 （政策学研究科修士課程1年）

能勢・豊能まちづくりの取り組みとして印象に残ったのは、再生可能エネルギーゾーンングです。再生可能エネルギーを導入する際に鳥獣保護区や保有人林などをデータビジュアライズし、地形と生態系的に問題のないエリアを出します。様々なデータから都市構造の特色をとらえて、再生可能エネルギーを導入するエリアを定めているのと同時に、地域資源を可視化している点が先進的だと思いました。

また、様々な方法で住民のまちづくりへの参加機会を設けている点もまちづくりとして重要なことではないかと思いました。例えば、ゾーンングに対する不安がある住民とは直接議論する機会を設定する、ワークショップを経て条例案を策定するなど議論を深めるプロセスがあるように感じました。

再生可能エネルギーに関わるだけでなく、まちづくり活動に参加する仕組みも構築されています。能勢・豊能まちづくりは収益の一部を地域活動団体の活動費に充てています。電力を契約している住民は、支援したい地域活動団体に「いいね」をつけることができ、「いいね」の数に応じて活動費が分配される仕組みです。これによって、住民に間接的にまちづくりに関わる機会を与えることができていると思います。

能勢・豊能まちづくりは地域住民と問題を共有し、また地域構造の分析を重ねながらまちづくりを進めています。そのため地域住民のニーズに完全に答えるのではなく、現状の課題や将来を見据えたまちづくりを行うことができていると思いました。



## 協定先懇談会報告

今年度もオンラインによる開催となりましたが、2023年7月27日(木)に地域公共人材総合研究プログラム地域連携協定先懇談会を開催し、29の各種団体様の方々にご出席賜りました。

懇談会では、本学大学院の教育理念・目的、地域公共人材総合研究プログラムの概要や、プログラムに参加している2研究科(政策学研究科、法学研究科)の特長などについて説明いたしました。

後半の意見交換では、入学試験に関する内容やカリキュラムに関する内容など、様々な意見をいただき、大変有意義な会となりました。

## 事務局インフォメーション

政策学研究科 修士論文・課題研究報告会  
2024年3月9日(土)9:30～(予定)

7月22日(土)に開催いたしました中間報告会では、多数の修了生の方々にもご参加いただきました。ありがとうございました。来年3月の修士論文・課題研究報告会につきましても、深草キャンパスにて対面での開催を予定しておりますので、ご都合がよろしければ、是非ご参加いただければと存じます。詳細につきましては、3月上旬(予定)にメールにてご案内させていただきます。

## 地域公共人材総合研究プログラム ニュースレター 「グローバル通信」 通巻63号 2023年12月

発行 / 龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム H P / [https://www.ryukoku.ac.jp/gs\\_npo/](https://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/)  
連絡先/ 政策学部教務課 編集 / 谷澤莉音、吉田瑞希  
TEL:075-645-2285 FAX:075-645-2101 編集補助 / 松尾修、平國祐樹  
監修 / グローバル通信編集委員会